

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690800012		
法人名	株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティ(営利法人)		
事業所名	東山ケアセンターそよ風(桜)		
所在地	京都市東山区本町18丁目386-1		
自己評価作成日	平成27年10月12日	評価結果市町村受理日	平成28年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigyosyoCd=2690800012-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成27年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別レクを通じて、地域との関わりを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は、理念に利用者の尊厳や自然体でゆったりとした暮らしを支えたいとの思いを込め、一人ひとりの「しあわせ」に向けて日々の支援を行っています。近くにある東福寺の散策や地域の商店や喫茶店、飲食店へ出かけ自然に会話する日常が利用者の穏やかな暮らしに繋がりを、また地域に開かれた事業所を目指し、敬老会や運動会、町内会議への参加を積極的に行ったり、デイサービスと合同で行う秋祭りには歌を地域の方に披露する機会も作るなど、利用者の楽しみとなっています。個別レクレーションや外出にも力を入れ、写経や俳句、編み物、パズルなど得意なことややりたいことができるよう見守り、笑顔と活気ある暮らしに向け職員はチームワーク良く取り組み、家族の協力も得ながら支援を行っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に、会社の理念を唱和行い、共有・確認行っている。会社の理念となっている「しあわせ」に向けて、利用者様を地域から孤立させる事なく地域社会の一員として生活をして頂けるように努めている。	法人の理念を基に職員で話し合い作った独自の理念をフロアの入口に掲示し、朝礼時に唱和し意識付けをしています。地域の商店へ買い物に出掛けたり、地蔵盆や敬老会等の行事に積極的に参加し、利用者が地域の一員として今まで通り暮らすことが出来理念である「しあわせ」に繋がりたいの思いを込め、日々のケアを提供しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、地域との繋がりを持っている。地蔵盆や敬老会、運動会等の地域行事へも参加している。また地域の古紙回収にも協力している。散歩時等近隣の方と出会った際は、挨拶を交わしている。	町内会に加入し回覧板から地域の情報を得るとともに、事業所敷地内の掲示板に事業所で開催する行事の案内を掲示して地域の方へ告知しています。散歩の時に地域の人と挨拶したり、地域の行事や町内会議の参加、古紙回収への協力等を通じて地域との交流を図り、利用者が地域の一員として暮らせるように努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事へ積極的に参加している。事業所の主催する秋祭りにも地域の方々も参加して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で頂いた、ご意見を職員一同把握し、サービスの質の向上に努めている。	会議は2か月に1回利用者や家族、地域包括支援センター職員、近隣住民、町会長等の参加の下開催し、現状報告や行事の連絡をし、一人ずつ意見をもらっています。外出を増やして欲しいと意見をもらい、朝礼後の外出や外気に触れる機会を多く作るよう心がけ、出された意見を運営に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の報告書を区役所へ届けに行っている。	運営推進会議の議事録を区役所の窓口へ提出する際に事業所の現状を伝達したり、運営上の不明点を行政の担当へ電話して確認しています。研修等の案内が届き、内容により参加し、行政と協力関係を構築できるように努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を設置。会議の中で勉強会を実施し理解を深めている。センター前の道路は車両の往来が多く危険な為、玄関の施錠は行っているが、外気浴や散歩等を通じて、拘束感のないように努めている。	全体会議やユニット会議、ミーティングの中で身体拘束防止のマニュアルを使い研修を行い、報告書も提出してもらい周知しています。言葉による制止が見られた時は職員間でも注意し、利用者に待ってもらう時は理由も説明して納得してもらおうように努めています。玄関は施錠していますが、外出希望の利用者には出来る限り寄り添って拘束感のない暮らしとなるよう支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議の中で勉強会を実施している。入浴時や更衣時等身体の確認を行い、日々注意を払っている。また声掛け等に対しても職員同士で注意を行っている。		

東山ケアセンターそよ風(桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議時に、勉強会を実施し、理解を深めるように努めている。 支援例はないが、成年後見制度を活用されている方はおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、原則2名体制で対応し、十分な時間を取ってご説明し、質問等に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族交流会、ご面会時等に、ご意見・ご要望等お聞きする機会を持ち、サービスの質の向上に努めている。 また玄関先には、ご意見箱を設置している。	面会時や運営推進会議、年1～2回実施する家族会等で家族から意見を聞いています。 事業所内の衛生面で意見があり利用者も参加してもらい清掃の回数を増やしたり、また利用者への声かけの指摘にはについては接遇マナー等の会議を頻繁に行い改善に向け注意喚起しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議・GH会議時等、センター長や管理者と直接話ができるような雰囲気作りを心掛けている。定期的な、面談も行っている。 日常的にコミュニケーションを取るように努めているが、まだまだ十分ではない。	全体会議やユニット会議、日々の支援の中で職員から意見を言ってもらえるような雰囲気作りにも努め意見を聞いています。契約更新時等の個別の面談や定期的な面談で意見が言える機会を作っています。物品購入の提案で台所用品を購入しおやつレクリエーションを行う等、職員の意見を運営に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を行い、評価をしている。スタッフにゆとりがなく、日々の業務に追われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員に対して、トレーナー制度を取り入れている。研修への参加や毎月勉強会を行い、サービスの質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を通じて、同業者との交流を図る機会や、系列の他センターへ行く機会も持ち、サービスの質の向上に努めている。		

東山ケアセンターそよ風(桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前の個別面談にて、可能な限りご本人の意向をお伺いしている。 またご入居後も常にご利用者様の不安を傾聴し、安心して頂けるように努め、信頼関係の構築を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前の個別面談にて、ご家族様より、お困り事・ご不安な事等お聞きし対応している。ご入居後も面会時間等に日常生活の様子をご報告し、ご要望等お伺いし、良好な関係を築いていけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様や、ご家族様の意向を把握し、出来る限り、ご協力出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事等お手伝いして下さっている。共に協力しながら、暮らしを共にする者としての関係を築いている。 ご利用者様から職員へアドバイスを下さる事もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お誕生日会等にご家族様お誘いし、ご本人とご家族様の絆を大切にしている。ご利用者様の事をお尋ねし、情報収集しケアに生かしている。常にご利用者様を共に支え合う関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様・ご友人・ご親類の方もご面会に来られている。ご家族様とご自宅に帰られたり、お墓参りや外食にも出掛けられている。 電話の取次ぎも行い、馴染みの方との関係が途切れないように努めている。	友人や知人、親戚、姉妹等の来訪があり来訪時には居室に案内しお茶を出して一緒にゆっくり過ごしてもらえるよう配慮しています。友人と一緒に散歩や外食、ダンスの集まりへの参加や外泊、家族と法事や墓参りに外出する際には薬や服装等の準備の支援をしています。年賀状の投函や電話の取り次ぎも支援し、馴染みの人や場所との関係継続に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席配置等を配慮し、日常生活の中で自然に関わり支え合っている。また孤立される方ないように、配慮している。 歌や体操・百人一首・脳トレ等され、ご利用者様同士の会話も楽しまれている。		

東山ケアセンターそよ風(桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されてからも、電話を通じてお話をする機会がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人のご意向をお伺い把握し、意思決定を尊重して頂けるように努めている。またご希望を取り入れるように努めている。	入居時の面談で本人や家族から思いや希望、生活歴、趣味、身体状況等を聞き独自様式に記載し、入居前に利用していた施設からも情報を聞き意向や暮らし方の希望の把握に努めています。入居後の利用者との会話や表情等、気づいたことを介護記録等に記録し、困難な時は支援の中で様子を見て思いを推測したり、家族にも聞いたり本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様やご本人の会話の中から、生活歴や生活環境の把握に努めている。またセンター方式も活用し、情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを実施し、体調の把握に努めている。申し送りノートや介護支援経過記録を活用し、情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスやアセスメントを定期的に実施。モニタリングは毎月実施している。ご本人やご家族様からのご希望もお聞きし、ケアプラン作成している。	アセスメントや本人、家族から聞いた思いを基にサービス担当者会議を開き介護計画を作成しています。毎月モニタリングを実施し、評価と確認を行い3か月毎に再アセスメントを行い見直しています。サービス担当者会議では診療情報や往診時の医師の意見、面会時に聞いた家族の意見も反映させ介護計画を見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート等を活用し、職員間で情報の共有を図り、ケアプラン見直しに生かしている。ケアプランを実施したら、介護支援経過記録に印を入れている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調不良時の病院付添い等。その時々ニーズに応じてお一人、お一人支援している。		

東山ケアセンターそよ風(桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に参加し、地域との交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に内科や歯科の往診を受けられている。訪問看護も週一回来て頂いている。医師や看護師に相談し、関係が築けている。	入居時に今までのかかりつけ医の継続ができることや協力医について説明し、協力医の月2回の往診をほとんどの方が受けています。専門科へ家族と受診する際には、日頃の様子や結果等の必要な情報を交換し、週1回訪問看護師の健康チェックや利用者の希望や状態により訪問歯科医の治療を受けています。緊急時は協力医と連絡が可能でデイサービスの看護師にも相談ができ連携が図られています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中体調の変化等があれば、DSの看護師に報告し指示を仰いだり、見て頂く等連携を図っている。訪問看護師にも相談している。提携病院にも電話等で相談し指示を仰ぎ対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は個人ファイルを持参し、薬の説明書や診療情報提供書等確認して頂いている。また電話や面談にて、情報交換にも努めている。往診時等に相談や助言も頂き、連携を持つように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に応じて、個別に対応している。往診時に、ご家族様と医師がお話をされる場も持って頂いている。ご家族様のご意向により、他施設への入所申し込み等もやっている。	入居時に事業所としての重度化や看取りの指針を基に家族へ説明し、同意をもらっています。その時々状態を見ながら医師が家族に状況を説明し、医療が必要なければ家族の意向に添えたいと考え、本人の負担が大きい時や治療を希望される時は他の施設や入院先への申し込み等の支援をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルや緊急連絡網を掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回消防避難訓練実施。利用者様も参加されている。全職員が参加出来ないが、訓練記録にて、伝達勉強会を行っている。災害時には、地域の方にもご協力頂けるよう自治会にて話の場を持っている。	デイサービスと合同で年2回いずれも消防署立会の下、事業所では夜間帯を想定し利用者も参加し防災訓練を実施しています。通報や避難誘導等の訓練後に消防署から講評をもらい、次回に活かしています。自治会に参加した際に地域の方へ災害発生時の協力を依頼し関係の構築に努めています。水や食料等も2~3日分の準備をしています。	

東山ケアセンターそよ風(桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けには配慮しているが、強い口調等不適切な言葉掛けをしている時がある。	接遇マナーについて会議を頻繁に行い、不参加の職員には資料や議事録を渡し報告書を見てもらっています。上から目線での対応やきつい口調を避け、利用者の尊厳に配慮し優しく丁寧な言葉遣いや対応をするように伝えています。不適切な言葉かけがあればその都度注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人へ、ご希望や思いをお伺いし、自己決定して頂けるように努めている。 またすぐに行える事は、その都度支援出来ている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のペースを大切にし、ご本人のご希望に沿った支援に努めている。 時として、職員の都合を優先してしまっている事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分でその日に着る洋服を選ばれたり、お出かけ前に、化粧をされている方もおられる。マニキュアを塗り、おしゃれを楽しまれる機会も確保している。月一回の訪問理美容も、ご希望があれば利用されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルを拭き・下膳・配膳・食器拭き等、お一人お一人が出来る事をお手伝いして下さっている。またおやつレクを通じて、食べる事の楽しみも持って頂いている。職員は、ご利用者様と共に食事をしている。	法人の献立を基に食材を業者に発注し、冷蔵庫にある物や利用者から希望を聞きメニューを決めています。職員が調理し、利用者は盛り付けや配膳、洗い物等に携わっています。職員も会話をしながら同じ物を一緒に食べています。利用者とおやつを作ったり、誕生日には希望を聞き、寿司の出前や仕出し弁当、外食へ出掛ける等、食事が楽しみなものになるよう工夫がなされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量をチェック表に記入。水分摂取量が少ない方や、水分量の制限がある方にも配慮をしている。野菜を沢山使用した食事の提供を心掛け、体調や状態に合わせた食事形態や介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア実施して頂いている。お一人お一人に合わせ、声掛けや一部介助にて対応している。 夜間は義歯をお預かりし、義歯洗浄剤使用し、清潔保持に努めている。		

東山ケアセンターそよ風(桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を常に心掛け、チェック表を活用し、トイレ誘導が必要な方には、定期的に声掛け誘導を行っている。	個々の排泄状況を記録しパターンを把握し、表情や様子等を見ながら定時、随時に声をかけトイレで排泄できるよう支援しています。利用者により個々に沿った支援では失敗を減らせるように心がけ、家族にも相談しながら必要な排泄用品の検討を行い、排泄の自立へと繋がるように努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜ジュースや牛乳、バナナ等を用いた飲み物を朝にお出しし、便秘の予防に努めている。また野菜を沢山使用した食事となるように努めている。体操や散歩等、身体を動かす機会も持っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前・午後共に入浴して頂けるように努め、ご本人のご希望やタイミングに沿えるように配慮しているが、職員の都合となっている事もある。 入浴中、職員との会話も楽しんでいる。	入浴の準備は毎日行い、週2回以上を目安に午前中に順番に声をかけ入ってもらい、必要があれば午後にも入浴の支援をしています。入浴拒否が見られる時は声をかけるタイミングや翌日に無理なく入浴してもらっています。季節のゆず湯を実施したり、好みの石鹸やシャンプーの使用や歌を歌いながらその人のペースで入浴を楽しんでもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に応じて昼寝をされたり、体調に応じて居室で休んで頂けるよう支援している。 気持ちよく眠って頂けるように、室温にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は個人ファイルにて確認。薬変更時は、ご家族様に連絡。申し送りノートを活用し情報の共有している。服薬時は服薬チェック表を確認。職員間でダブルチェック。服薬後の症状の変化も確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵・生け花・歌・脳トレ等取り組んで頂く機会を持っている。お誕生日会や季節の行事も実施し楽しみのある生活を送って頂けるよう努めている。家事もお手伝いして下さり、役割を持って頂けるように支援実施。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	祇園祭鉾見学ドライブ、外食レク、散歩や外気浴も実施している外食レクでは、近隣の喫茶店へも出掛けている。 ご家族様と共に、お墓参りやドライブ、外食も楽しんでいる。	気候の良い時期には散歩へ出掛け、近隣の商店への買い物や庭先の花壇を見に行ったり、玄関先のベンチに出て外気浴をしています。地域で開催される行事や事業所内に併設のデイサービスで開催される行事への参加や、東福寺に行ったり、ドライブや外食へ出掛ける等、外出の機会を多く作るよう努めています。	

東山ヶアセンターそよ風(桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はセンターにて管理している。 外食レクや近隣スーパーへ買い物に行った際等に、代金を支払って頂く機会を持っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話ご希望時は、おかけしている。 ご家族様やご友人の方からの電話も取り次ぎお話しされている。 手紙が届いた際は、ご本人様にお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	障子やカーテンで光を調整。室温にも配慮している。トイレにはわかりやすいように目印を付けている。お誕生日会や季節の行事の際には、飾り付けを行っている。 廊下には、外出レクや行事の写真、利用者様の作品を掲示している。	ぬり絵や習字、手作りカレンダー等の利用者の作品や行事の写真を掲示し温かい雰囲気を作り、生花や季節毎の飾り付けの他、四季折々の自然の移り変わりを眺めることができます。利用者同士の相性を考慮しテーブルや椅子の配置を工夫し、テレビの音量にも注意し居心地のよい空間となるよう配慮がなされています。利用者と一緒に換気や清掃を行い、加湿器の設置や温湿度を管理しながら快適に過ごせる環境となるように努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では、お一人になられる空間はないが、気の合う利用者様同士で座って頂けるように座席を配慮。またソファで過ごして頂ける空間もある。お一人、お一人が、ご自分のお好きな場所で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には、写真等を飾られたり、ご自宅で使用されていた、家具や装飾品等をお持ちになられている。 TVも置かれ、お好きな番組を見られている。	自宅で使っていた机や座椅子、テレビ、ソファ、筆筒、大切にしている家族の写真や仏壇等を持ち込み使いやすいように安全にも配慮して配置しています。利用者と一緒に清掃をしたり、温湿度管理にも留意しています。日記を付けている方や編み物、パズル、写経等趣味を楽しめるよう工夫し、居心地よく過ごせる居室となるよう努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内バリアフリーであり、杖や車椅子を使用し、各自の身体機能を活かし過ごされている。居室入口には、各自の名前を確認して頂けるようになっている。トイレにも目印を付けている。		